

# 批判的思考

校長 吉田 隆

二〇二一年、明けましておめでとう  
ございます

昨年二月末、新型コロナウイルスの  
感染拡大により、全国一斉に休校が要  
請され、学校現場の状況は一変しまし  
た。直後の四月には、新学習指導要領  
が小学校で全面实施となりました。

新潟小学校では、五十五年ぶりに教  
育目標を「たくましく 美しく」に改  
め、見えない敵との闘いの中、未来を  
切り開いていける資質・能力の育成を  
目指して歩みを開始しました。

その資質・能力の一つ目に掲げた力  
が「挑む力」です。進展するグローバ  
ル社会で、自己実現を果たすためには、  
「出る杭は打たれる」といった日本的  
慣習に縛られるのではなく、能動性・  
主体性が必要不可欠になると考えたか  
らです。その行動を支えるために重要  
となるのは、批判的思考（クリティカ  
ルシンキング）です。国際学力調査を  
主催するOECDの分析においても、  
日本の教育は、知識の習得など基礎学  
力では高い数値を示すが、批判的思考  
を促す点で弱さがあると指摘されてい  
ます。

誤解のないよう付記しますが、批判  
的思考は、否定論者を育てる思考法で  
はありません。これは、一つの考えを

鵜呑みにせず、「なぜ正しいと言える  
のか？」「別の考え方はないか？」な  
どの疑問を持ちながら情報を整理して  
いく思考法で、新しい発想を引き出す  
効果があります。

そして、この思考法は、未来を生き  
る子どもたちのために留まらず、  
コロナ禍における今の私たち大人にも  
求められる思考法であると考えます。

日本人の同調性の高さは、感染防止  
の徹底が図られる良さがある一方、感  
染者への誹謗中傷という問題の背景と  
もなっています。批判的思考を働かせ  
て、適切な判断・行動につなげていく  
ことが大切です。例えば、「感染する  
のは自業自得だ」という考え方や感染  
者の個人情報の開示について、どのよ  
うに考えられるでしょうか？

人権保護と感染防止のバランスをど  
のように取るかは、非常に難しい判断  
です。賛否が分かれるところでしょう  
が、立場を問わず重要になるのは、決  
して空気に流されず、一人一人が事実  
に基づく判断を貫くことです。そして、  
多角的な視点から大局を見通すための  
努力を続けることです。

新潟小は批判的思考を重視しながら、  
今年も感染防止と質の高い教育の両立  
を目指していきます。